

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



より良いスポーツ・運動文化の継承と発展と創出を視野に入れて…

子ども教育学部 「初等体育」等担当教員：林 俊雄

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを楽しみにしている方がたくさんいらっしゃると思います。そのための組織づくりや施設づくりも始まりましたが、早々にメイン会場となる新国立競技場のデザイン・費用問題やエンブレムの盗用疑惑問題が沸き起こり関心を集めています。

オリパラは世界最大のスポーツイベント・祭典として世界中の注目の的となっていますが、それはスポーツが人類の普遍的な文化として認められるようになったからです。120年ほど前に始まった近代オリンピックは、創始者のクーベルタンが理想としたオリンピズム（オリンピックを通しての人権、友情、連帯、平和の創出）の浸透を戦争や差別といった困難を排しながら少しずつ果たしてきました。その一方で認知度が上がり巨大イベント化するとともに、勝利至上主義や商業主義の蔓延という負の遺産も併せ持つようになってしまいました。今のままの姿のオリンピックが理想というわけでは決してありません。

教師や保育士は、スポーツ・身体運動・運動遊びを人間らしく生きるために欠かせない文化として捉え、その素晴らしさや価値を日々の関わりの中で次代を担う子どもたちに伝えていかなければなりません。本学部の体育・スポーツ系の授業では「する・みる・ささえる・しらべる」という四つの観点からスポーツ・運動遊びを捉え直し、すべての人にとってより良いものへと発展させたり新たに創出させたりする基礎的な力量を培うことを目指しています。

本年度1年生の「スポーツ理論と実技」では、各種のスポーツやスポーツイベントやスポーツ組織の歴史にあたり、何のために、どこで、いつ、だれが、どのようにそれを始めどのような変遷を辿ってきたのかを調べながら、自分の実技経験と照らし合わせつつ、今後のより良い姿・形を考察してみるというレポートで学習のまとめを行いました。既成のスポーツルールに縛られることなく、自分たちの思いや願いに適った望ましいやり方・ルールを創り出す大切さに多くの学生が気づいていきました。